

14. 上延生の遺跡

上延生は芳賀町域の中央北部にあたる。本地域の大部分は五行川低地に位置しており、水田地帯が広がる。「延生」の地名は、上延生から下延生にかけた、五行川沿岸の長く伸びた平坦地に由来するものと思われる（埴 1983）。

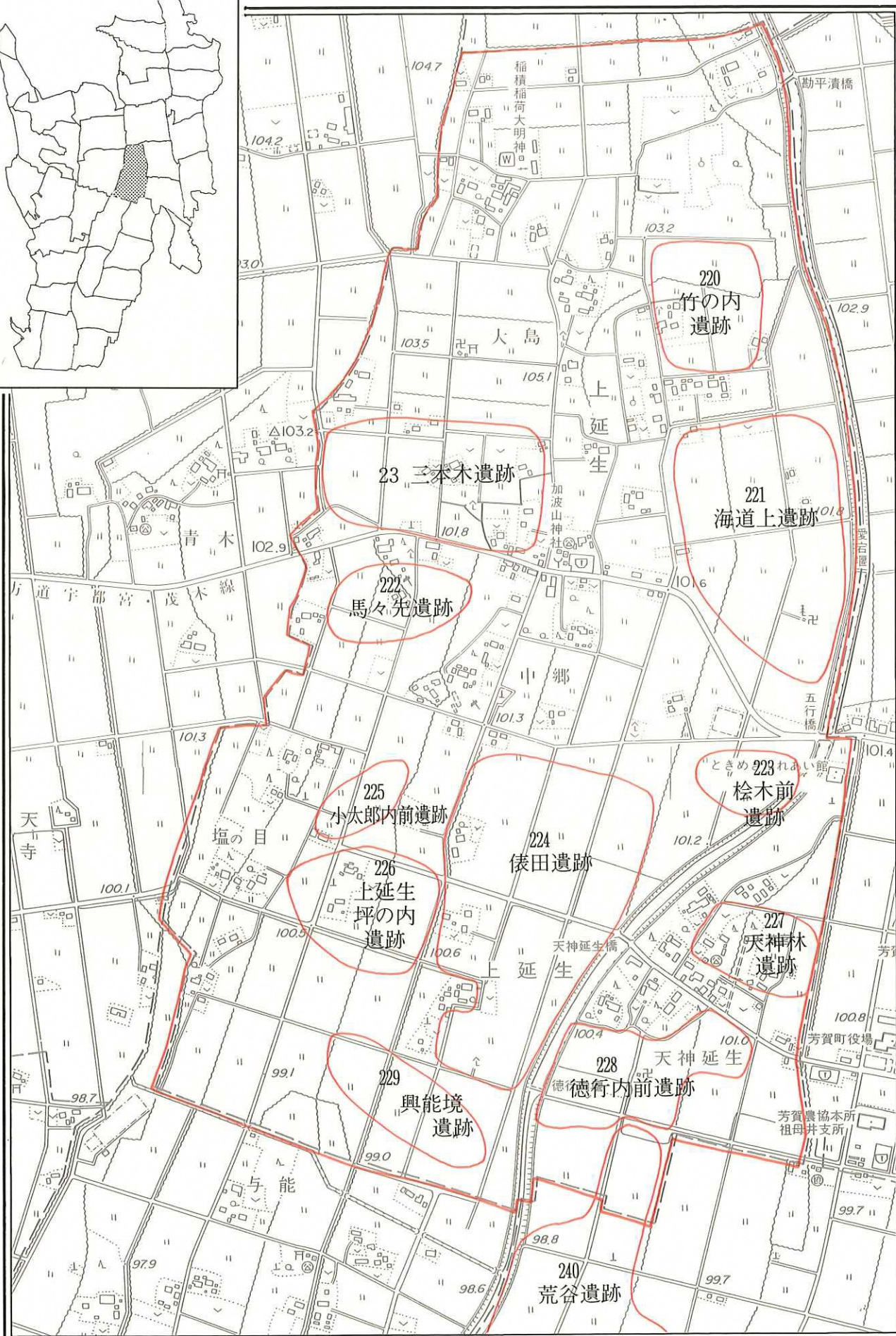
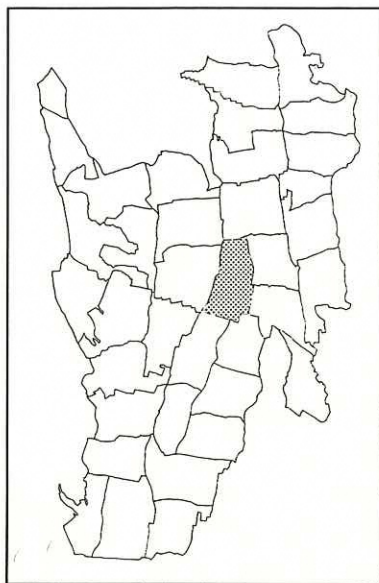
上延生には、三本木遺跡が周知の遺跡として存在し、今回新たに、竹の内遺跡・海道上遺跡・馬々先遺跡・桧木前遺跡・俵田遺跡・小太郎内前遺跡・上延生坪の内遺跡・天神林遺跡・徳行内前遺跡・興能境遺跡の 10 遺跡を確認することができた。本地域の遺跡は五行川沿岸の低地または微高地に立地し、奈良・平安時代、中世、近世に属するものがほとんどで、それ以前の時代に属するものは少ない。

三本木遺跡は本町における主要な古墳時代の集落として知られているが（埴 1983）、今回の調査では、縄文時代中期と考えられる土器片や、近世の陶器片が採集されている。古墳時代以降の遺跡としては、竹の内遺跡・天神林遺跡があげられる。また、竹の内遺跡では、縄文土器片や石鏃が採集されている。

本地域の遺跡は水田地帯にあるため、開田の影響を受けているものが少なくないと考えられるが、古代にかけて開発が活発化した地区の一つであろう。

（平久保直希）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
23	三本木遺跡	上延生字三本木725～876		○		○	○		○	集落跡	微高地	田・宅地
220	竹の内遺跡	上延生字竹の内		○		○	○		○	集落跡	微高地	田
221	海道上遺跡	上延生字海道上300他					○	○	○	集落跡	低（湿）地	田・畑
222	馬々先遺跡	上延生字馬々先421					○	○	○	散布地	微高地	田
223	桧木前遺跡	上延生字桧木前540、541					○	○	○	散布地	低（湿）地	田
224	俵田遺跡	上延生字俵田1189～1199、 田中場566～590					○	○	○	散布地	低（湿）地	田
225	小太郎内前遺跡	上延生字小太郎内前642、643、 652～654					○	○	○	散布地	低（湿）地	田
226	上延生坪の内遺跡	上延生字坪の内650～1145					○	○	○	散布地	微高地	田・宅地
227	天神林遺跡	上延生字天神林132～137、 108～110				○	○			散布地	低（湿）地	田・畑・宅地
228	徳行内前遺跡	上延生字徳行内前2～27、 下延生字14～31					○	○	○	集落跡	低（湿）地	田
229	興能境遺跡	上延生字興能境1226～1252					○	○	○	散布地	低（湿）地	田



上延生の遺跡分布図

15. 下延生 2-2 の遺跡

下延生 2-2 は芳賀町域の東央部にあたり、五行川低地、祖母井台地上に位置する。東側を市貝町に下延生 2-2 に接している農業地帯である。

本地域には、作内遺跡が周知の遺跡として存在している。今回新たに北原遺跡・荒谷遺跡・綾住北遺跡・綾住遺跡・阿古屋遺跡・糸引遺跡・寺前南遺跡・寺前遺跡・下延生五斗蒔遺跡・二ツ堂北遺跡・二ツ堂南遺跡・境内遺跡の 12 遺跡を確認することができた。次に主要な遺跡の紹介をしたい。

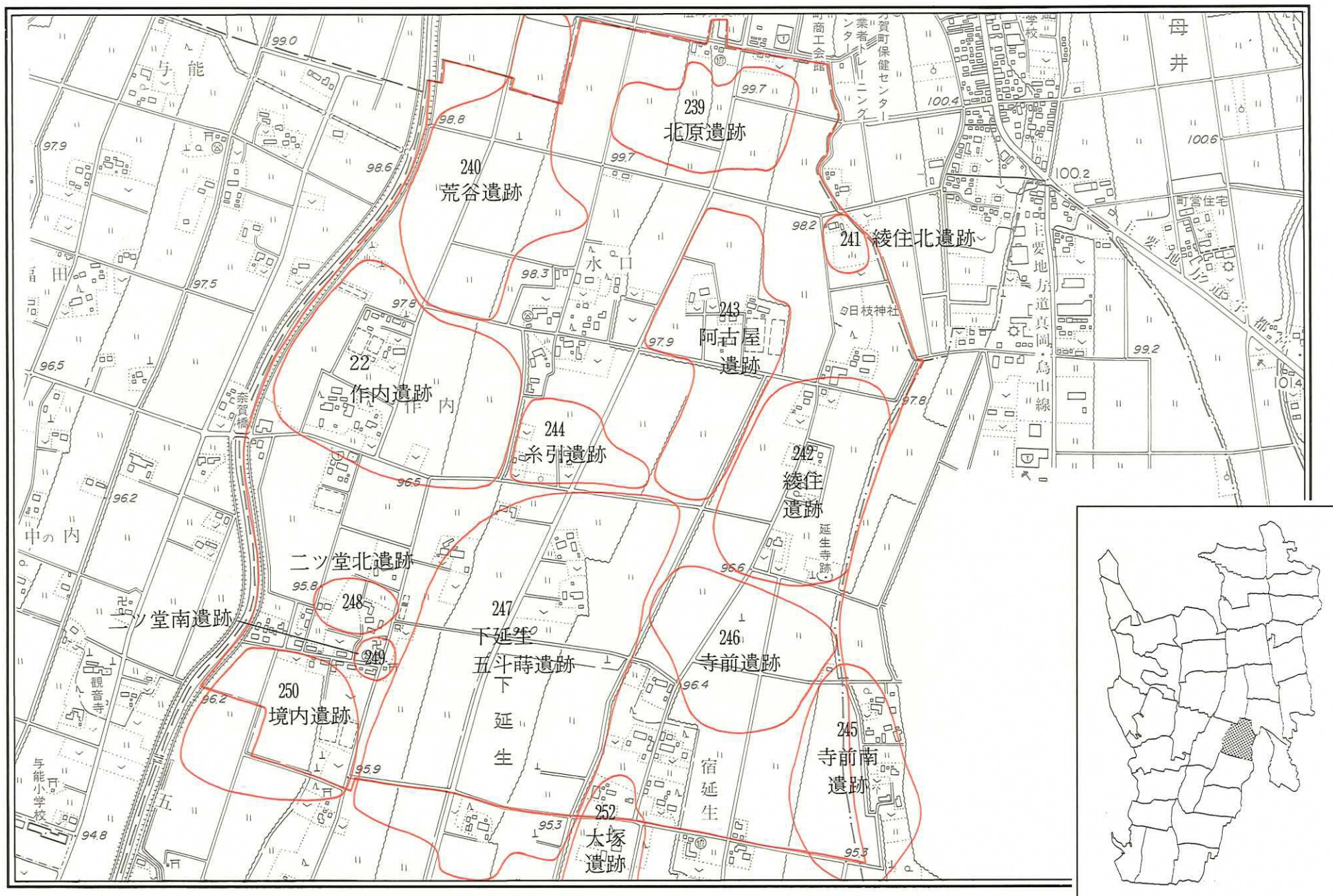
作内遺跡は、五行川左岸の微高地上に立地する。昭和 33 年春、農地耕作の際、土師器が出土したことにより発見された。その後の現地調査の結果、2m の範囲内から 10 個余個体の土器が発見された。器種は甕形土器・甑形土器・鉢形土器・坏形土器などで鬼高式に比定されるものである。これらは極めて小範囲に一括して存在し、住居跡ともおもむきを異にしていることから祭祀遺跡であるとみられている（埴 1956b）。

今回の調査では、作内遺跡の北に荒谷遺跡、東に糸引遺跡、南東に下延生五斗蒔遺跡が確認されている。下延生五斗蒔遺跡については遺物の分布が散漫であることからやや広く範囲を設定した。いずれも近接しており、関連が考えられる。

綾住遺跡は、五行川左岸の低地に位置する遺跡で、奈良・平安から中・近世にかけての遺物が採集されている。本遺跡地内には天正年間に平石紀伊守高治により築かれたと伝えられる平石館跡、200m 程南東には平石家の菩提寺であった延生寺廃寺跡が存在し、その周辺に遺物は散布していた。現在館跡は全て消滅し水田・畑地・宅地となっている（橋本 1998）。

（大沼正代）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世 以降	種類	立地	現状
22	作内遺跡	下延生字作内1096、1097、1136他		○		○	○	○		集落跡	平地	田
239	北原遺跡	下延生字北原740～761、1006～1009					○			散布地	微高地	田
240	荒谷遺跡	下延生字荒谷793他		○			○	○		新落跡		
241	綾住北遺跡	下延生字綾住708～710					○			散布地	微高地	畑・宅地
242	綾住遺跡	下延生字綾住456～620					○	○	○			
243	阿古屋遺跡	下延生字阿古屋825、699他					○			散布地	微高地	畑・宅地
244	糸引遺跡	下延生字糸引540～561、603～610他				○	○	○				
245	寺前南遺跡	下延生字寺前										
246	寺前遺跡	下延生字寺前381～465					○		○	散布地		
247	下延生五斗蒔遺跡	下延生字五斗蒔468～533、境内1150～1432					○	○	○	散布地		
248	二ツ堂北遺跡	下延生字二ツ堂1356～1359他					○	○		散布地	微高地	畑
249	二ツ堂南遺跡	下延生字二ツ堂1387～1、1387-1					○			散布地	微高地	畑・宅地
250	境内遺跡	下延生字境内1159～1341					○			集落跡		



下延生2-2の遺跡分布図

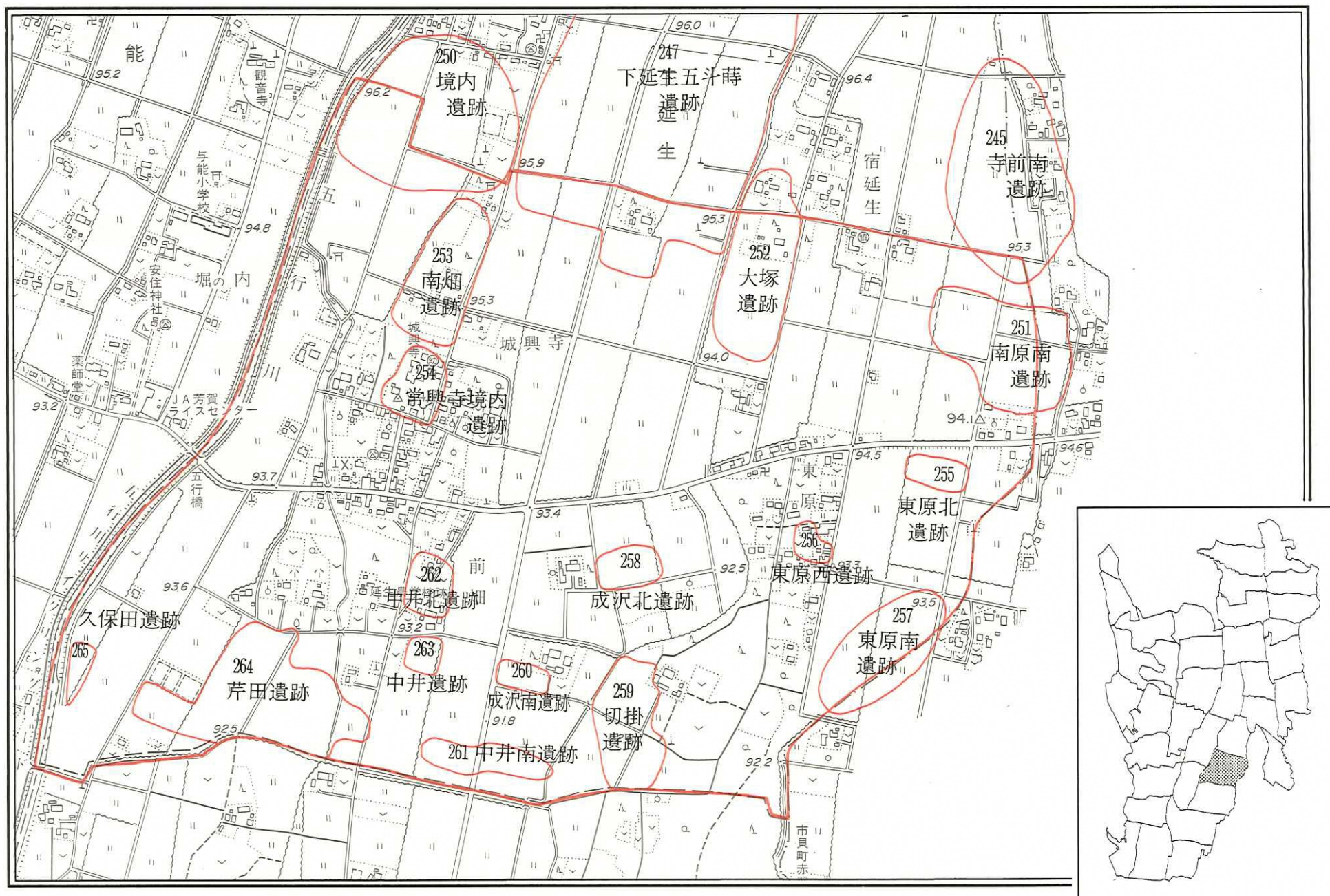
16. 下延生 2-1 の遺跡

下延生 2-1 は芳賀町の中央よりやや東側に位置し、東側は市貝町と接する。比較的低平な祖母井台地に立地している。

本地区には周知の遺跡はなく、新発見の 15 遺跡を確認した。いずれも遺物量が少ないが、広範囲に散在していることから、比較的遺跡の範囲を広めにとって、散布地とした。ほとんどの遺跡が奈良・平安時代もしくは中世に属するもので、一部縄文時代、古墳時代、近世を含むものがある。遺物としては土師器・須恵器・中世陶器（播鉢）、かわらけ、内耳土器・五輪塔・石鏃・縄文土器（中期）・近世陶器などである。内耳土器は栃木県内では 15 世紀以降の遺跡から出土するため、その頃のものと考えられる。また、切掛遺跡は開田された際に中世の溝が 3 条ほど発見されたという。

分布調査のため、遺物の散布範囲をそのまま遺跡の範囲と考えるのは問題が残ろうが、本地区には奈良・平安時代～中世にかけて断続的に大規模な集落が営まれた可能性がある。(塩谷慎介)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
251	南原南遺跡	下延生字南原212、214他						○		散布地	微高地	田
252	大塚遺跡	下延生字大塚301～306		○			○	○		散布地		
253	南畑遺跡	下延生字南畑503、1511-8他					○	○		散布地	微高地	畑
254	常興寺境内遺跡	下延生字南畑1641-1						○		散布地	微高地	境内
255	東原北遺跡	下延生字東原161、162		○			○	○		散布地	微高地	田
256	東原西遺跡	下延生字東原81							○	散布地		畑
257	東原南遺跡	下延生字東原188～190、194～196					○	○		散布地		
258	成沢北遺跡	下延生字成沢65-1・2						○		散布地	微高地	畑
259	切掛遺跡	下延生字切掛47～50他					○	○		散布地	微高地	畑
260	成沢南遺跡	下延生字成沢南										
261	中井南遺跡	下延生字中井1821他						○		散布地	微高地	田
262	中井北遺跡	下延生字中井										
263	中井遺跡	下延生字中井1828他		○		○	○			散布地	微高地	田
264	芹田遺跡	下延生字芹田1908～1925他					○	○		散布地	微高地	田
265	久保田遺跡	下延生字久保田1981他					○			散布地	微高地	畑



下延生2-1の遺跡分布図

23. 与能 2-2 の遺跡

与能 2-2 は芳賀町域のほぼ中央部にあたり、五行側右岸の五行川低地に位置する。近接する下延生には下延生地蔵尊があり、南側を東西に上根北長島線の県道が走り、平坦な水田地帯である。

本地域には、これまで周知の遺跡は存在しなかったが、今回新たに並塚遺跡・与能作内遺跡・福田遺跡・芋頭西遺跡・菅間遺跡・石堀遺跡・富士山南遺跡・前ノ内遺跡・高田内遺跡・道明内遺跡・明室内遺跡・堀ノ内遺跡・道明内南遺跡の 13 遺跡を確認することができた。次に主要な遺跡の紹介をしたい。

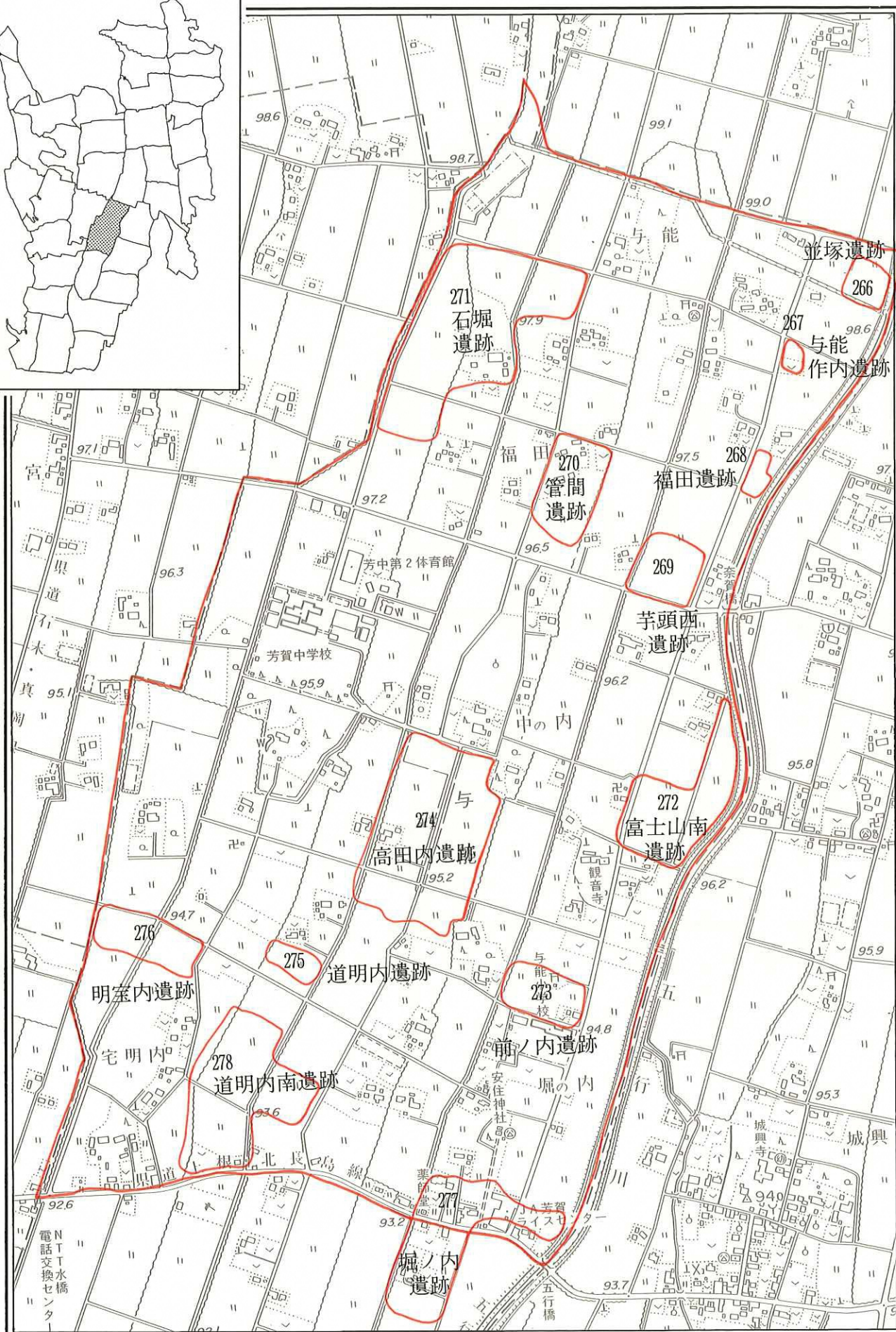
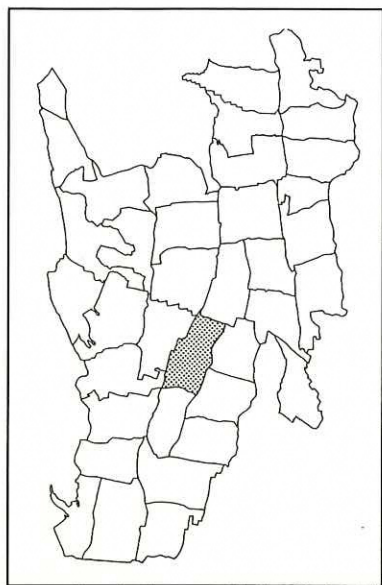
堀ノ内遺跡は、五行川右岸に近接する微高地上に立地する。遺物は奈良時代以降、特に中世のものと思われる灯明皿片や土器片を細片ではあるが、多数採集している。地名からも本遺跡は中世の館跡の可能性が高いと思われる。現状は水田になっている。

菅間遺跡・石堀遺跡・高田内遺跡でも中世のものと思われる土器片を多数採集している。このように本地域では中世・近世には大規模に開発された可能性が考えられる。

並塚遺跡・与能作内遺跡・福田遺跡については、遺物の分布量が極めて希薄であるため、散布地として取り扱った。

(大沼正代)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
266	並塚遺跡	与能字並塚1106					○			散布地	低(湿)地	畑
267	与能作内遺跡	与能字作内1979						○		散布地	低(湿)地	畑
268	福田遺跡	与能字福田1094						○		散布地	低(湿)地	畑
269	芋頭西遺跡	与能字芋頭946～949					○			散布地	微高地	田
270	菅間遺跡	与能字菅間972					○			散布地	微高地	田
271	石堀遺跡	与能字石堀994～2157						○				
272	富士山南遺跡	与能字富士山926～937					○	○		散布地	低(湿)地	田
273	前ノ内遺跡	与能字前ノ内735～737						○		散布地	微高地	田
274	高田内遺跡	与能字高田内711～801					○	○		散布地	微高地	田
275	道明内遺跡	与能字道明内703					○	○		散布地	微高地	田
276	明室内遺跡	与能字明室内670～673					○	○		散布地	微高地	田
277	堀ノ内遺跡	与能字堀ノ内560～577、544-3 他					○	○		集落跡	微高地	田
278	道明内南遺跡	与能字道明内608～623						○		散布地	微高地	田



与能2-2の遺跡分布図

24. 与能2-1の遺跡

与能2-1は芳賀町の中央部やや南よりに位置し、五行川が南北に縦走する五行川低地上にある。

本地区には周知の遺跡はなく、新発見の遺跡として見座内遺跡・西川内遺跡・松原遺跡・与能坪之内遺跡の4遺跡を確認した。遺跡はほとんど五行川右岸の低地及び微高地に立地している。それぞれの遺跡について紹介していきたい。

西川内遺跡は遺物の散布量から比較的大規模な遺跡で古墳時代から奈良・平安時代の集落跡と考えられる。

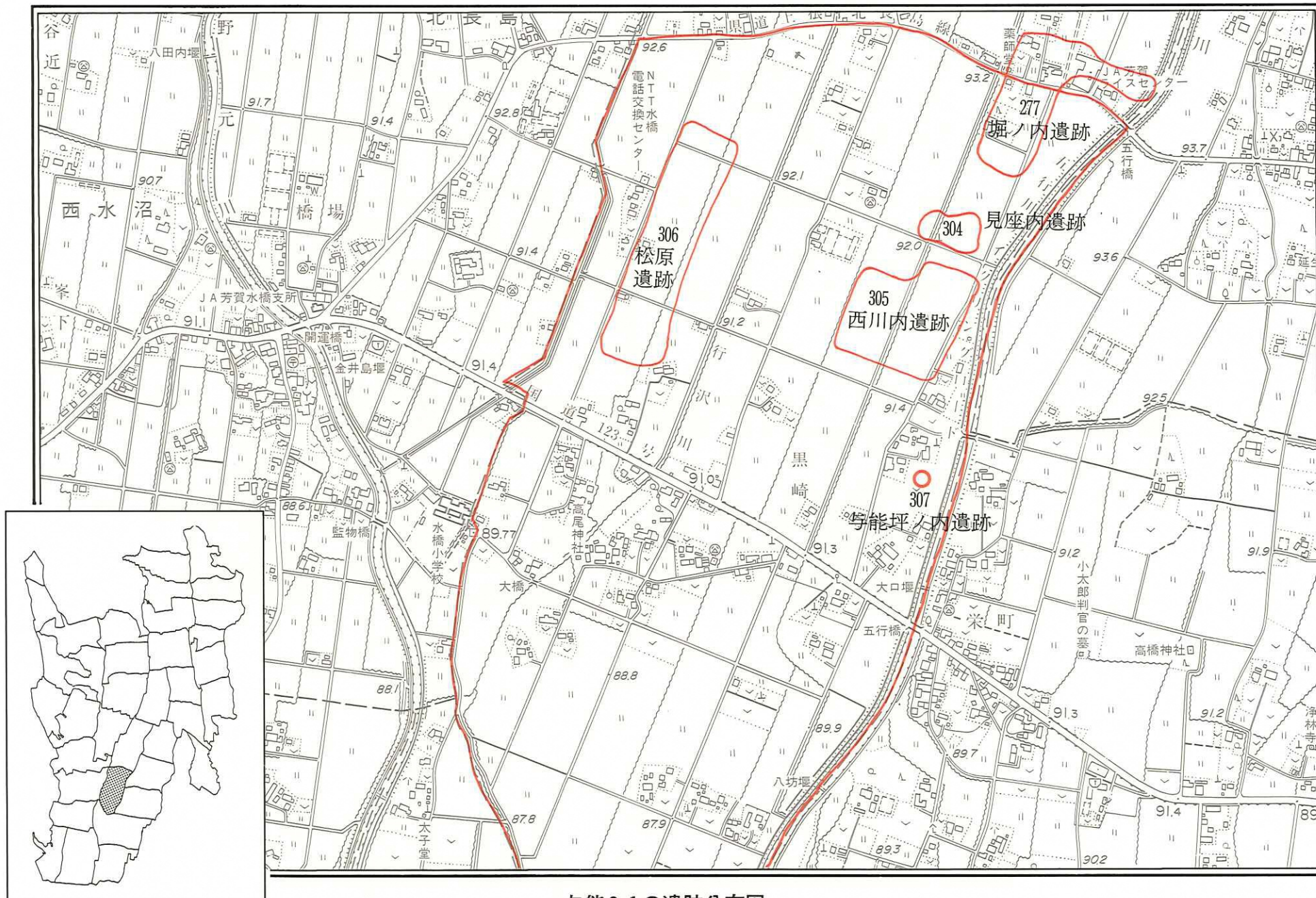
松原遺跡は遺物の出土量が多く、大規模な遺跡である。時代も縄文時代、奈良・平安時代～中世と断続的ながらも恒常的に集落が営まれたと思われる。遺物の出土範囲が南北に偏ることから、現水田下には台地と南北に開析される小谷が入り組んでいる可能性がある。

見座内遺跡は近世の陶器が採集される小規模な遺跡であるため、宅地跡の可能性はある。

与能坪之内遺跡は遺物が少量しか採集できないこと、低地に位置することから、耕地整理の際の混入の可能性はある。

(塩谷慎介)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
304	見座内遺跡	下与能字見座内523他							○	散布地	微高地	田
305	西川内遺跡	与能字西川内356他				○	○			集落跡	微高地	田
306	松原遺跡	下与能字松原778-1他		○			○	○		集落跡	微高地	田
307	与能坪ノ内遺跡	与能字坪ノ内323					○			散布地	低(湿)地	田



与能2-1の遺跡分布図